北陸病害虫研究会50周年にあたって

富　樫　一　次

北陸病害虫研究会という会の存在を知ったのは昭和40年代の中頃であったろう。その頃は石川県農業試験場に川瀬英爾さんがおられ，イネの害虫に関しての研究会報の別刷を頂戴したものであった。

昭和46年，石川県農業短期大学に勤めるようになり，47年のバス旅行で石川県穴水町にクリ園の造成されている事を知り，害虫調査を実施しようと考え，48年から月２回の割合で穴水町へ行き，後には月４回の割合で現地調査を行った。

しかし，その間にはイチモンジセセリやイネクビホソハムシの天敵調査で県内を歩きまわり，クリタマバチの天敵調査も行った。また，金沢農業改良事務所の林　賢一さんとともにブドウを加害するスズメバチ類の調査をしたり（病虫研報に報告），ナシの果実を加害するヒゲジロハサミムシについて調べたり（病虫研報に報告），ナシのハダニ防除の一方法として幹にクラフト紙をまき，そこにひそむハダニの数やその他の昆虫数についても調査している。この場合，クラフト紙の中には天敵昆虫も侵入しているため，一様に焼却してはいけないということができよう。

他にもキュウイの訪花昆虫を調査して少ない事を知ったり，ダイズの加害昆虫とその天敵を調べたりしているが，石川県志賀町でカキの害虫調査をしたりしている。一方学生とともにサツマイモの害虫とその天敵調査，サツマイモの加害昆虫であるドウガネブイブイの卵巣内の蔵卵数の調査なども行う一方で，ナシ園やブドウ園の地表性甲虫数の種類相とその捕食性の調査も行ったし，ブドウを加害する害虫とその天敵相についても研究を行った。また，イラガ数の食性とその天敵数についても調査して，イラムシヤドリバエ，イラガセイボウ，イラムシヤドリカタビロコバチ等の天敵を記録し，その一部は病虫研報に報告している。

ところで，北陸病虫研報をひもとくと，なる程水稲害虫の記事は多いが，果樹害虫とか蔬菜害虫に関する報告は少ない。まして天敵数に関しての報文は更に少なくなる。どうしてだろうか。北陸は昔から水稲栽培が盛んであったため，水稲害虫の研究者が多かったことによるものであろう。しかし現時点で石川県からはウンカ類の天敵であるカマバチ数の報告はないし，ネジレバネ類についての報告もない。また，イネクビホソハムシの卵寄生蜂であるドロムシムクゲタマゴバチの有効利用法も考えられていない。水田でイネミズゾウムシ成虫が水面上に落下した場合アメンボが捕食するかどうかについてかなりの時間観察したが捕食の状況を観察できなかった。

私は1999年にクリ園に生息する害虫とそれらの天敵類について報告したが，それら天敵類の有効利用法については全く取り上げていない。天敵類は飼育の結果として得られることが多いので，羽化後の行動については全く不明である。昔，ドロムシムクゲタマゴバチは羽化したあとは土中にもぐり夏と冬を経過して春になってイネクビホソハムシの卵に産卵するとの報告があったが，それ以後の報告は知らない。クリ園で得られた天敵類についても交替宿主を見つけて産卵させ，次世代の害虫の発生時期に放飼できるようにすべきではなかろうか。農薬の使用制限が叫ばれている今日，もう一度天敵の有効利用を考えるべきではなかろうかと考えている次第である。